

**基本理念**  
 社員で考え社員のための労働運動を目指す、企業内労働組合  
 心とこころをつなぐ相互扶助活動と、次代につながる社会正義の実現を目指す  
 第 7 号

# JUSTICE

ジェイアール・イーストユニオン

J R 連 合

ジェイアール・イーストユニオン

発行者 菅野 一位  
 編集者 教 宣 部

〒105-0021  
 東京都港区東新橋 2-8-28  
 TEL(JR) 057-7333



## 2015年イースト・ユニオンが目指す労働運動

ジェイアール・イーストユニオン 中央執行委員長 菅野 一位



新年あけましておめでとうござい  
 ます。  
 新年を迎え、今年一年が組合員の皆さんとご家族の皆さまにとつて幸多い年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

ジェイアール・イーストユニオン中央執行委員長の菅野です。新年にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。昨年未からの爆弾低気圧による豪雪は、異常気象が進んでいるのを一刻一刻と私たちに訴えているかのようです。自然災害から身を守ることに鉄道輸送を通して関わる私たちは、地球規模での自然との共存に對して、もつと敏感になるべきかもしれません。助け合いの精神が根底にある労働組

合が、前面に出て取り組む活動の一つだと思えます。今後、組織の前進に合わせ、イーストユニオンの活動でも取り組んでいきたいと思えます。また、師走の忙しい中で行われた第47回衆議院議員選挙は自民党の圧勝となり、アベノミクスによる安倍首相の政権支持率確認のための国民投票的選挙となりました。対抗すべき野党は1強多弱の政党情勢で

確たるものにしてしまい、労働組合組織としても不在感が露呈してしまつた選挙であつたと反省をしております。働く側の声が政治に届いていない現実を受け止め、労働組合の在り方を検証して今後の政治に発信していかなければならないと思ひます。

さて、昨年5月10日にイーストユニオンを結成し早8カ月が経過しました。この間を皆さんはどのような気持ちで過ごされたでしょうか。

1987年4月、国鉄民営分割に揺れ動いていた日々を終止符が打たれ、JR東日本が発足しました。

社会的な批判を浴びていた国鉄から、JRの労働組合は大きく変革し、労使一体となつた企業改革が実践され今日このJRに至つたと思ひます。その根底にあるのは「二度と国鉄の時代に戻さない」という思いです。しかし28年が経過し、企業寿命が50年と言われる中で、JRはその半数を過ぎ折り返しに入つています。JRの企業寿命を延ばすため、「いま私たちが実践しなければならぬのは何か」を振り返り、労使が一体となつて突き進んでいかなければなりません。

そのような中で私たちは、新たな組織を立ち上げ苦難の道を選びました。

私たちの労働組合、労働運動の原点は、JR東日本に民主的労働組合の構築と民主的な労働運動を展開するための考え方の継承です。私たちは「変わらないもの」「それを「信念」にまで引き上げ、時間がかかっても、時間をかけても、粘り強く発信していくことが重要であると考えています。会社に対して異端児になることを恐れず、新たな挑戦に向かうことにこだわる少数派組織であるが故に、会社に対し説得のプロセスと証明のプロセスを経て、必要と思わせる労働組合を目指します。その過程において、安心して働く職場をつくり、企業内労働組合と

して働き甲斐とする「労働」を通して、生き甲斐を感じられる職場づくりを目指していきます。

そのためには、イーストユニオン全組合員のモチベーションを、もう一度高めなければなりません。「信念と熱意の確認」、組合員が自分の仕事や主張に裏付けをつける習慣づくりをします。裏付けは自信につながり、それを続ければ信念に変わります。その裏付けを主張することは、熱意となつていきます。

ぜひ、熱く突き進むために、組合員の皆さんには職場で裏付けされた主張の展開を強くお願いいたします。

最後に、人生の価値は自分自身が自分をどれほど信じたかで決まると思ひます。だからこそ、何があつても自分に対する絶対的な信頼を失わないでいただきたいと思ひます。自立し、自己の確立をさせて、最後まで一緒に「信念」を貫いていきましょう。

今年一年、組合員皆様のご活躍とご健康をご祈念申し上げ、一致団結した行動の実践をお願いいたします。新年のご挨拶といたします。

明るく、楽しく、元氣よく頑張りますよ！

# 当面する四つの課題

日本鉄道労働組合連合会（JR連合） 会長 松岡 裕次



新年あけまして、おめでとうございます。日頃よりJR連合運動へのご理解、ご協力に感謝致します。加えて、年末年始輸送や昨年末の衆議院議員選挙への対応等に重ねて御礼申し上げます。年頭にあたり、当面

する課題と決意を述べたいと思えます。

一点目が安全の取り組みです。JR連合は「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最終目標に取り組んでいます

が、重大労災は減っていないのが現状です。特にグループ会社や協力会社の社員が受傷するケースが多く、JR・グループ会社・協力会社の三位一体で安全を創り上げていくことが必要です。

加えて、107人の方々が犠牲となった福知山線列車脱線事故から今年の4月で10年を迎えます。事故を知らない若手社員も多くなり、労働組合としても事故の記憶を風化させないよう取り組むことが肝要です。

二点目が政策課題実現の取り組みです。JR連合は短期的な課題を毎年の「交通重点政策」として議員懇談会、議員フォーラム、関係省庁などへ働きかけを行う一方、中長期的な課題は3つのプロジェクトチーム（PT）を立ち上げ、検討を重ねてきました。

その結果、「三島・貨物経営安定化PT」において、昨年10月に最終答申が示されました。今後、答申に盛り込まれた提言を「有言実行」すべく、関係者と連携を図っていくと同時に、残る2つのPTについても結論が得られるよう議論を継続します。

三点目が政治活動の取り組みです。昨年末の突然の衆議院解散・総選挙によって、水を差された感があります。今年4月には統一

地方選挙が施行され、多くの組織内議員が改選期を迎えます。地域公共交通を担うJRにとって、自治体との連携は、ますます重要になります。組織内議員の皆さんに自治体とJRの「架け橋」になっていただき、地域活性化にむけて共に汗をかいていきたいと考えています。

四点目が組織の取り組みです。JR連合は目下「10万人組織」の達成に向けて取り組みを進めています。そのことが連合の提唱する「1000万人連合」と「働くことを中心とする安心社会」の実現につながっていくものと確信しています。組織強化・拡大は一朝一夕で実現するものではありません。民主化闘争の取り組みを含めて、地に足をつけた運動を愚直に推し進めていきます。

最後に2015春季生活闘争の取り組みです。輸送型の製造業は円安で一定の利益を確保しているものの、内需産業は原材料費高騰などで厳しい状況に変わりがあります。また、労働者の実質賃金は下がり続け、一方で企業の内部留保は過去最高水準にあるとも言われています。

このような中、私たちの働くJRは本州3社を中心に概ね好調な経営を続けています。会社が黒字を計上し、

世代交代を含めて生産性を向上させている以上、その対価を求めているのは当然です。今春闘でも実質賃金の向上を求め、交渉を展開するべきと考えます。

さらに、グループ会社なくして、JR産業はもはや成り立ちません。人口減少社会を見据えた人材確保と育成に資する人事・賃金制度の構築など、課題は山積しています。今春闘で「労働協約力」の向上を含む、グループ労組の積極的な支援にも取り組めます。

JR連合は、2月に開催する第27回中央委員会での闘争方針を議論、決定します。組合員の皆さまの建設的な職場討議を要請するものです。

このように多くの課題があるものの、JR連合8万1000人が一致団結し、共に前進していきたいと考えています。この1年も先頭に立って闘う決意をお誓い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ジェイアール・イーストユニオン

### 中央本部役員

執行委員長	菅野 一位	仙台
執行副委員長	秋山 順一	東京
執行副委員長	飯野 浩	仙台
事務局長	国井 道徳	新潟
執行委員	大橋 俊明	仙台
執行委員	斉藤 弘昭	横浜
執行委員	和知 利昭	横浜
執行委員	池田 庄一	新潟
執行委員	高橋 佳昌	東京
執行委員	菅井 正和	東京
執行委員	三瓶 信次	仙台
執行委員	斎藤 修	新潟
執行委員	添田 寿男	仙台
会計監査		
会計監査		

本年も宜しくお願いたします